

令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果について

令和3年 10月15日
枚方市立楠葉中学校

文部科学省が今年5月に実施した、令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、生徒の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

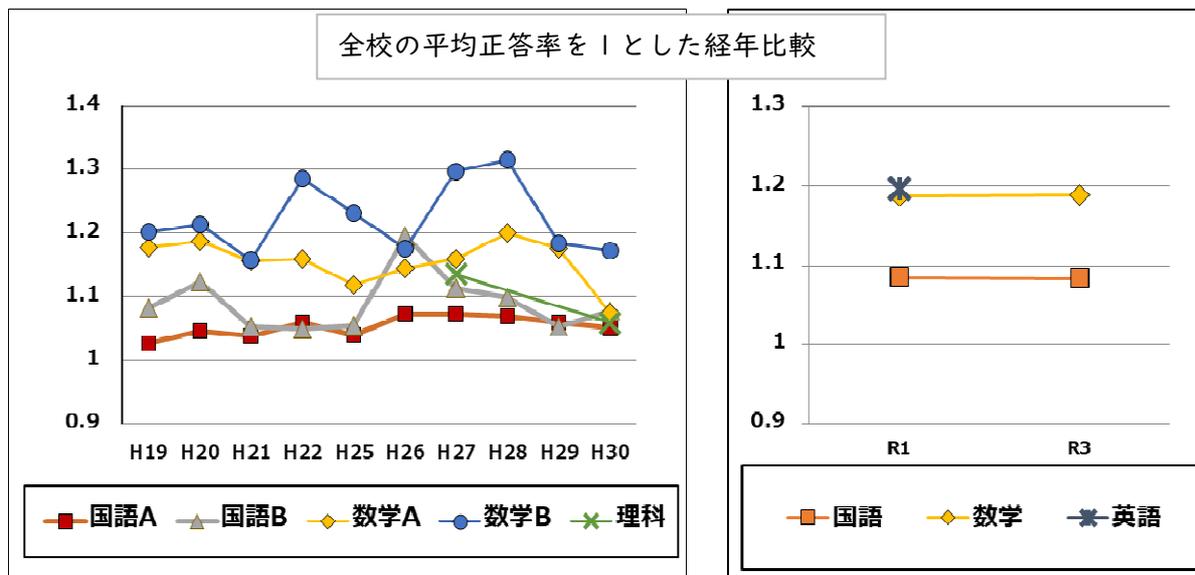
【全体概要】

学力調査の結果

※調査結果について
教科や出題範囲が限られていることから、
全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部分です。

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較(対全国比)をお知らせします。

(※令和元年度より、A・B問題が一体化されましたので、グラフを分けています。)



<学力調査結果の概要>

○国語について

→どの問題も全国平均を上回る正答率であり、無解答率も低かった。1年生の時から授業の中で自分の考えを書くことや話し合ったり発表したりする機会を多く取り組んできたことが実を結んできたと考えられる。また、漢字テストを継続してきたことで学習する習慣や基礎的な学力が身についたことが今回の結果に反映されたと思うので、今後も続けていくことが必要だと思った。

○数学について

→授業の中で思考・判断・表現を問う課題を設定し、取り組んでいる成果だと考えられる。普段の学習状況・テストの正答状況から予想される通りの結果となっていた。

※本調査は、平成19年度から実施されています。

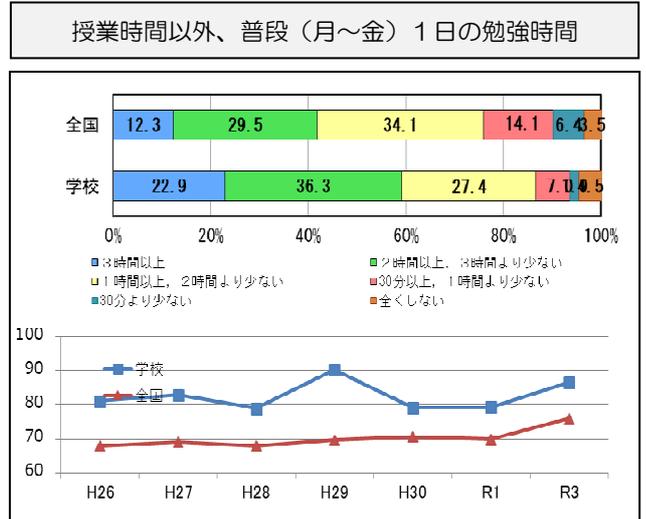
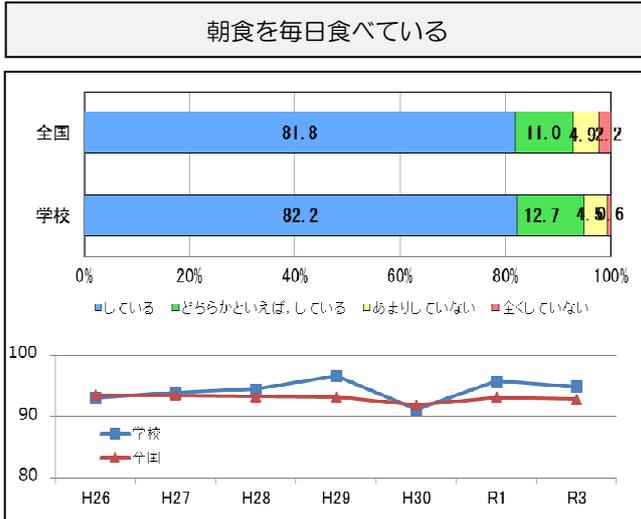
※平成23年度・令和2年度は中止、平成24年度は一部の学校を対象にした抽出調査のため、掲載していません。

※英語の調査は、令和3年度は行われておりません。

質問紙調査の結果

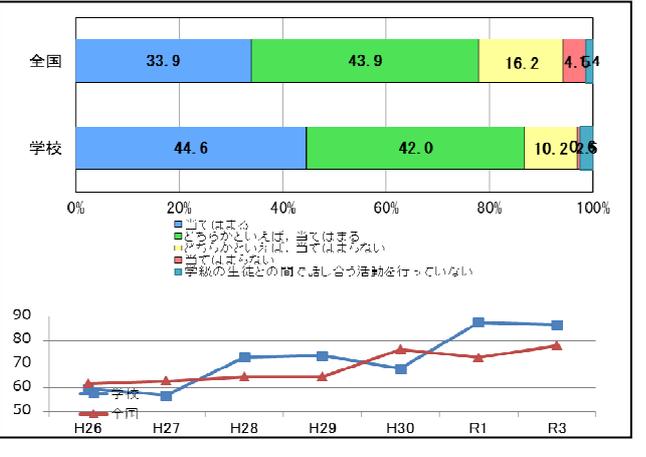
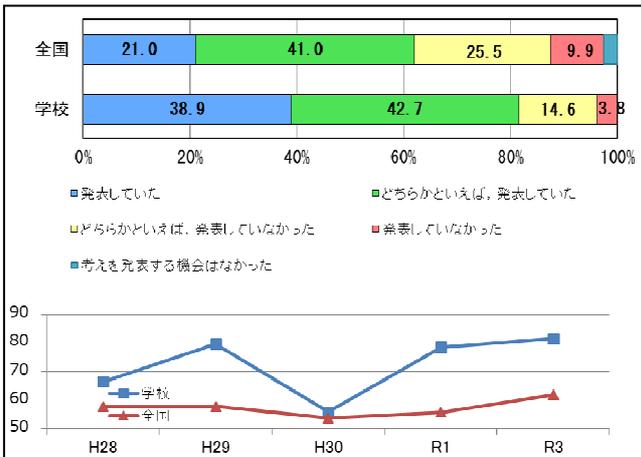
※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
 ※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
 ※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。



自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表していたと思いますか

生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



<質問紙調査結果の概要>

「朝食を毎日食べている」生徒の割合が高いことから、生活習慣が身につけていることがわかる。
 「授業時間以外の学習時間が1時間以上と回答した生徒の割合は全国平均を上回っている。また、授業においては「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思う」の肯定的回答の割合は高く、発表の工夫についての肯定的回答の割合も高い。

まとめ

学力調査の結果から基礎的な力はついており、全体においても全国平均を上回っている。また、記述式の正答率は成果が見られる。この結果については、授業での話し合い活動への肯定的回答が多いことから授業改善の成果を感じる。

※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しております。

【詳細について】

教科に関する調査

<国語>

成果や課題があった設問

【成果】

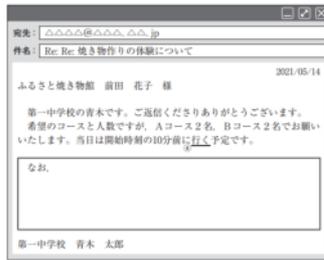
事前に確かめておきたいことについて相手に失礼のないように書く

※ 次のページの枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きます。

- ・ 持ち物と服装について
- ・ 写真撮影の許可について

確認事項

四 青木さんは、「二回目のメールの下書き」の□の部分に、事前確かめておきたいこととして、次の確認事項について書くこととしています。あなたなどのように書きますか。書き出しの「なお」に続けて、相手に失礼のないように書きます。



青木さんが送信する「二回目のメールの下書き」

	正答率	無解答率
本校	80.0	5.9
全国	71.9	9.7

(考察)

どの問題も全国平均を上回る正答率であり、無解答率低かった。1年生の時から授業の中で自分の考えを書くことや話し合ったり発表したりする機会を多く取り組んできたことが実を結んできたと考えられる。また、漢字テストを継続してきたことで学習する習慣や基礎的な学力が身についたことが今回の結果だと考えられる。

【課題】

「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く

--	--	--	--

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きます。

四 「紹介」に「全部」様々な「評価する」とありますが、「又輩の」では、「吾輩」は「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしていますか。また、あなたは、そのような「吾輩」の接し方をどう思いますか。次の条件1と条件2にしたがって書きます。

なお、読み返して文章を直したいときは、「本編で消したり行間を書き加たりしてかまいません。

条件1 「又輩の」から、「吾輩」が「黒」を評価している部分を引用した上で、「吾輩」が「黒」にどのような接し方をしているかが分かるかを書くこと。

条件2 条件1のような「吾輩」の接し方について、あなたの考えを具体的に書くこと。

	正答率	無解答率
本校	28.4	7.7
全国	20.5	24.1

(考察)

問題の意図を理解したうえで自分の考えを正確に伝えることが求められている。正答率・無解答率ともに全国平均を上回る結果であったが、無解答率が高かったため、引き続き自分の考えを伝えるように表現する取り組みが必要である。

<数学>

【成果】

四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和は
いつでも4の倍数になることの説明を完成する

6 自然数を5つずつに区切った表があります。この表で、縦に2つ、横に2つの数が入る四角で4つの数を囲みます。例えば、右の図1のように四角で4つの数を囲むとき、左上の数は3、右上の数は4、左下の数は8、右下の数は9になります。

図1

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15

優太さんと真菜さんは、右の図2のように、4つの数を囲んで、それぞれ4つの数の和がどんな数になるかを調べています。

図2

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25
26	27	28	29	30
31	32	33	34	35

1, 2, 6, 7のとき $1 + 2 + 6 + 7 = 16 = 4 \times 4$
9, 10, 14, 15のとき $9 + 10 + 14 + 15 = 48 = 4 \times 12$
22, 23, 27, 28のとき $22 + 23 + 27 + 28 = 100 = 4 \times 25$

優太さんは、これらの結果から、四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になると予想しました。

(2) 二人は、四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になることが成り立つかどうかについて話し合っています。

優太さん「左上の数が1のとき、左下の数が6になっているね。四角で4つの数を囲むとき、左上の数を5をたすと左下の数になっているよ。」
真菜さん「そうなるのは、自然数を5つずつに区切っているからだね。」
優太さん「左上の数を n とすると、左下の数は $n+5$ と表すことができるね。」
真菜さん「右上の数と右下の数も n を使って表して、4つの数の和について調べてみよう。」

「四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になる」という優太さんの予想が成り立つことの説明を完成しなさい。

説明

n を自然数として、四角で囲んだ4つの数のうち、左上の数を n とすると、右上の数は $n+1$ 、左下の数は $n+5$ 、右下の数は $n+6$ と表される。これら4つの数の和は、

$$n + (n+1) + (n+5) + (n+6)$$

=

	正答率	無解答率
本校	83.2	4.5
全国	61.8	15.4

(考察)

例年通り、基本的な知識・技能を問う問題から思考・判断・表現を問う問題まで出題されており、すべての問題において成果が出ていた。今後も授業の中で思考・判断・表現を問う課題の設定を行っていく。

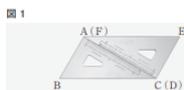
【成果】

四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和は
いつでも4の倍数になることの説明を完成する

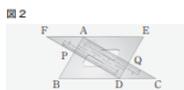
9 30°、60°、90°の同じ三角定規を2つ用意し、それぞれ△ABC、△DEFとします。直輝さんと由衣さんは、この2つの三角定規を組み合わせでできる四角形について考えることにしました。



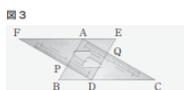
二人は、2つの三角定規を右の図1のように、点Aと点F、点Cと点Dが重なるように並べました。このとき、四角形ABCEができます。



次に、図2のように、点Dが辺BC上にあり、辺EFが辺BCと平行になるように、△DEFを△ABCに重ねました。辺ABと辺FD、辺EDと辺ACの交点をそれぞれ点P、Qとすると、四角形APDQができます。



そして、図3のように、点Dが辺BC上にあり、辺EFが辺BCと平行になるように、△DEFを左に動かしました。



次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

(1) 二人は、前ページの図1の四角形ABCEが平行四辺形になると予想し、予想が成り立つことを示すために、次の図4をかきました。

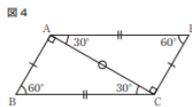


図4において、△ABCと△CEAは合同なので、対応する辺の長さや角の大きさが等しいことがわかります。

このことから、四角形ABCEが平行四辺形になることは、平行四辺形になるための条件を用いて説明できます。下のア、イのどちらかを選び、選んだ条件を用いて説明しなさい。ア、イのどちらを選んで説明してもかまいません。

ア 2組の向かい合う辺がそれぞれ等しい四角形は、平行四辺形である。

イ 2組の向かい合う角がそれぞれ等しい四角形は、平行四辺形である。

	正答率	無解答率
本校	60.0	1.3
全国	44.3	3.6

(考察)

こちらの問題も上記の問題と同じように、記述式で数学的な見方・考え方を活用させる問題だが、全国よりも正答率が高い。普段の授業から思考・判断・表現を問う課題を設定し、取り組んでいる成果だと考えられる

質問紙に関する調査

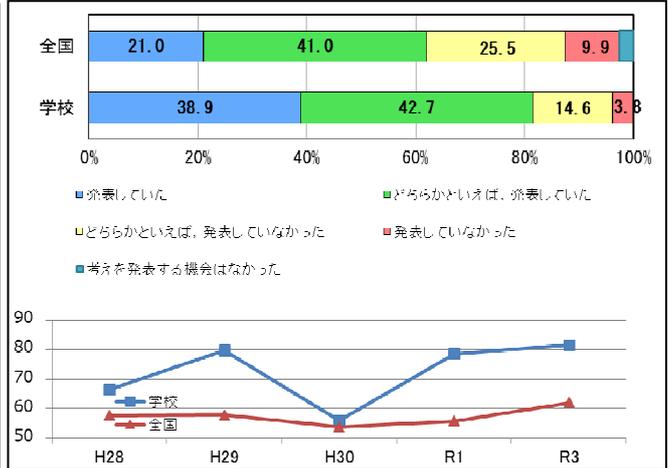
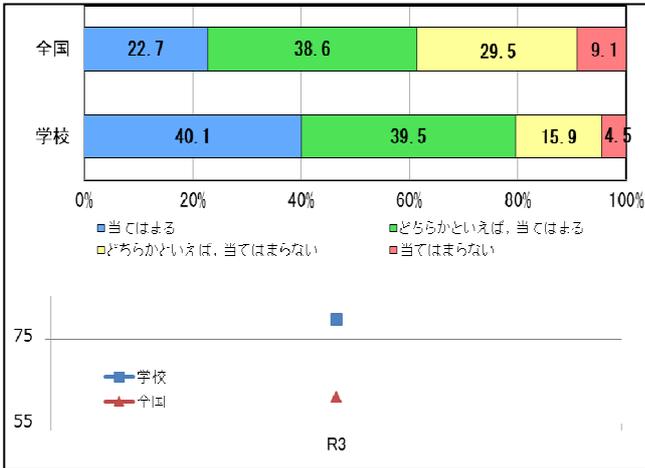
※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
 ※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
 ※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

【成果のあった項目】

国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしている

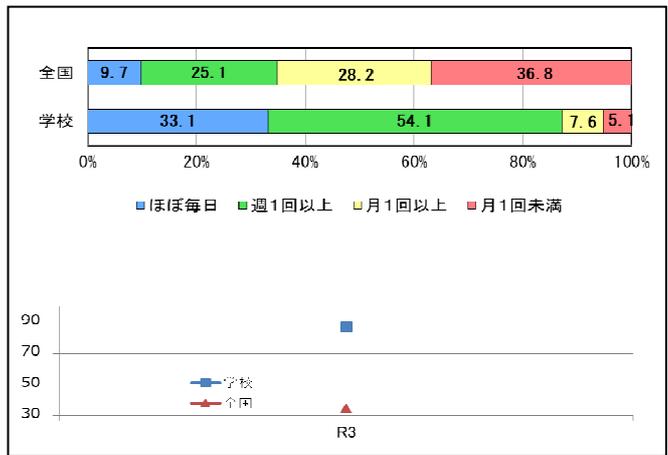
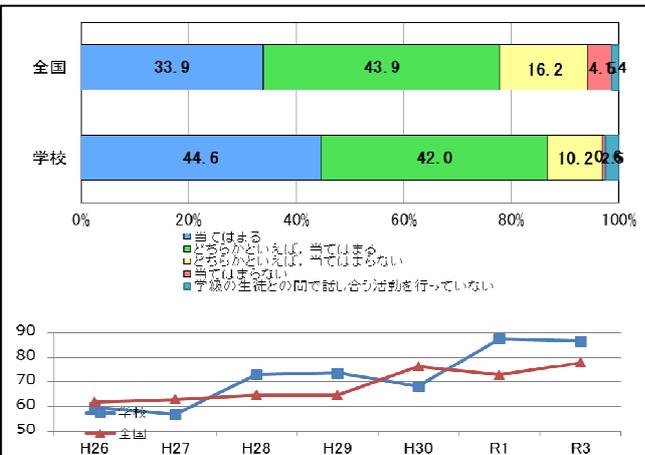
授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか

▲ 全国
■ 本校



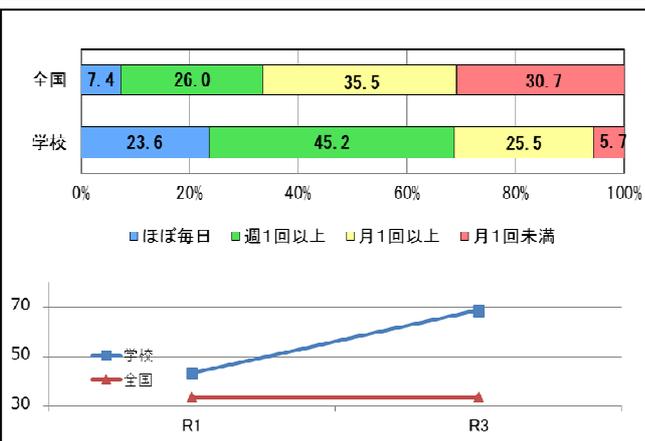
学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか

コンピュータなどのICT機器を、他の生徒と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか



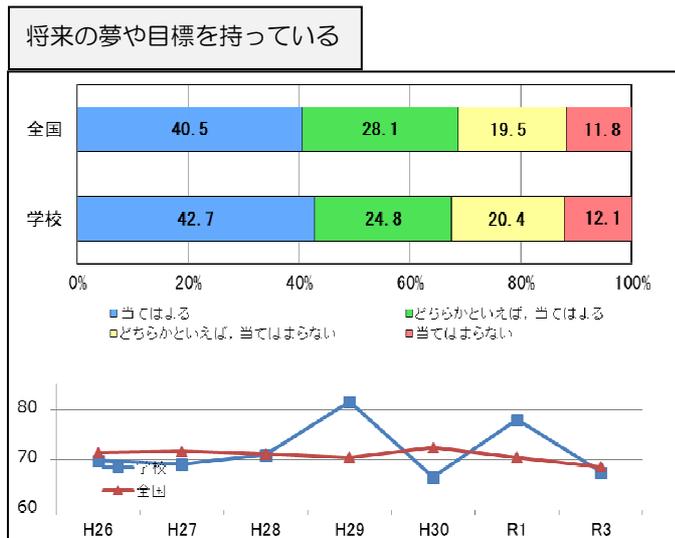
1.2年生ときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか

(考察)



話し合いや発表などの言語活動の項目の数値が高いことから、国語科を中心とした言語能力を意識した授業改善が進んでいることが、生徒の意識と学力調査の結果からも成果として表れているように思う。また、ICTについても、授業での使用率は高いことから、実践が進められているように感じる。ICTに関しては、実践の中で活用方法だけでなく、効果や課題についても検証する。

【課題が残った項目】



(考察)

将来の夢や目標を持っていると答えた生徒の割合が低いことから、学校での学習が生徒の中でうまくつながっていないように思う。

他の質問項目の総合的な学習の時間に関する質問では意欲的に取り組んでいると回答している生徒が多いので、さらに総合的な学習を中心にキャリア教育を充実し、生徒に将来を見据える力を育成する必要がある。

分析結果を踏まえて今年度中に取り組んでいくこと

(1) 授業改善について

生徒の言語活動に対する肯定的な意識が高まっていることから、授業改善の成果が見られる。これは今年度の研究テーマである『人とつながり、自分の考えを広げ、深める生徒の育成』に沿った授業改善が学校全体として進んでいるといえるので、今後も取組みを継続して進めていきたい。その取組みの一つとして、国語科を中心とした言語能力の育成を進めているので、今後も教科横断的に実践を行っていききたい。また、総合的な学習の時間を中心に探究的な学びの実現に向けて取組みを進め、学習を自分ごととして捉えることができるようにし、最終的にはプレゼンなどを行っている。そのことによって、学習意欲が高まり、自己肯定感の向上や達成感を味わうことができる学びを保障することができていると考えられる。今後も学校全体で、育成する資質・能力の共通認識を持った指導を進め、さらに次の進路に授業での学習を繋げられるようにしていきたい。そのためにも、これらの取組みを教員間での交流を目的とした授業参観を行い、授業力の向上を図っていく。

タブレットなどの ICT 機器の活用に関しては、積極的に活用法を検討し、実践を進めている。今後は実践の中での効果や課題を検証していき、実践の交流や研修を校内で進めていきたい。

(2) 家庭学習について

テスト前学習計画表を配布し、自分で課題を考え、目標を立てさせる。それをテスト結果後に振り返らせる。この取組に対しては今後も検討していく。自主学习ノートを学校全体で取り組んでいるが、その取組みの啓発を行うとともに、保護者への協力をお願いしていく。